

電友会四国連合会報

第 29 号
55. 1



目次

年頭にあたって……………	四国電気通信局長……………	二
年頭のごあいさつ……………	電友会四国連合会長……………	二
電友会四国連合会総会……………		三
各県退職者の会総会（徳島・愛媛・高知）……………		四
四国連合会初の米寿者片岡友吉さんを祝う……………		四
扶養控除等申告書……………		五
秋の生存者叙勲……………		五
電気通信産業功労者表彰……………		五
表紙のことば……………	莊野 丹秀……………	五
余米・計報……………		五
共済会だよりⅡ……………		六
OBサークルだより（愛媛・徳島・高知）……………		七
特 集……………	申の年にちなんで……………	八
大野 峰生 滝沢 一郎 千代 義雄 野本 幸馬		
濱口 徳幸 真鍋 仲義 秋山 秋則 池田喜代美		
原 清司 石浜 敏雄 増野 儀明 三浦 秀男		
村川 清子 高井 弘二		
書……………	織田 英鶴……………	二
川 柳……………	福田秋風郎・合田 勇……………	三
随 筆……………	江戸野 仇・山田加賀子・田中義高……………	三
	藤田基孝・玉川都夢……………	三
短 歌……………	山内旬一・藤田基孝……………	四
編集後記……………		四

年頭にあたって

四国電気通信局長

藤 田 史 郎



電友会の皆さま、明けましておめでとうございます。一九八〇年、いわゆる八〇年代幕開きの新春を迎え、皆さまの御繁栄を

心からお祝い申し上げますとともに、平素から公社事業につきまして格別の御協力御支援を賜り深く感謝申し上げます。電友会も、年を追うごとにますます御発展を続けられ、まことに御同慶にたえません。

さて、公社にとつて、昨年の一九七九年は記念すべき年でありました。すなわち発足以来の二大目標（積滞解消・全国自即化）を全国的に達成した歴史的な年であるわけですが、これもひとえに先輩の皆さま方が宮々と築きあげられた成果の賜物であり、これを後輩の私共が受け継ぐことにより達成できたものと深く肝に銘じているところであります。旧ろう、通信局構内に、職に殉じられた先輩方の「慰霊の碑」を建立しましたのも、この歴史的に意義ある年にちなんだ行事の一つであり、この方達を含め諸先輩の御功績を私共の胸に刻み込み、これからの新しい時代に臨む気持ちを培っていききたいと考えたからであります。

このような意味で、これから始まる八〇年代は、築きあげてきた巨大な通信のネットワークを運用して、真のサービスを提供してい

く時代になるわけです。どちらかと言えば、量的拡大にウエートがおかれていた物の考え方を改め、お客中心の方向に変えていくことが必要ですし、またこれを受けて仕事のやり方、組織等も変えていくことになると思います。混雑し、またお客とのきめ細かい対応もできない現状にある大きな局の営業窓口を地域状況にあわせて分割したり、サービスステーションと呼ぶ簡易な営業窓口をターミナルビルに設置するなど、皆さまの目にもはっきりと見える形で公社が変わっていくことになると思います。

また、これから重点をおいて取り組んでいくお客サービス上の施策としては、まずサービスの地域格差の是正であり、この立場から地域集団電話の一般加入電話化や加入区域の七キロ拡大をより推進したいと思っております。また同時に、いわゆる非電話系といいますが、ポストテレホンといわれる各種のサービスについて本格的かつ具体的に取り組んでいきたいと思っております。

非電話系サービスとしてのファクシミリ通信については、昨年十月電話回線を利用して原稿を高速（約一分）で電送する電話ファックスが全国的な第一次発売地域という形で松山を中心に発売されました。今後はそのサービス地域を拡大するとともに、将来、登場してくる家庭用の小型の電話ファックスの普及についても大いに力を入れていきたいと思っております。更にデータ通信についても、特定のユーザ専用のシステムとしては、従来百十四銀行システムただ一つであったわけですが、昨年その二つ目として、松山日赤病院の「共同利用型病院情報システム」がスタートするに到りました。四国の場合、残念ながらこのよう

データ通信を含め、通信全体の利用度が少し低い状況にあります。その便利さをもっと認識していただき、地域社会の発展のお役に立ちたいと考えております。

ところでいま、公社をとりまく内外の諸情勢は、ますます厳しさを増し、まさに多端な時代を迎えております。特にガット東京ラウンド問題につきましては、先輩の皆さま方も御心配をいただいたところでありますが、国際規約に基づく政府調達に伴う涉外や実施手続きなどの業務を行うことになるなどの動きにあることを御報告いたします。

皆さま方は、私共現役の最大の良き理解者であるとともに、地域社会の有力な実力者であります。何とぞ豊富な人生経験と豊かな知恵をいただき、今後とも一層のお力添えをお願いいたします。

終りになりましたが、皆さま方のますますの御健康と御多幸並びに電友会の御繁栄を心からお祈り申し上げ、私の新年のごあいさつとします。

年頭のごあいさつ

電友会四国連合会長

泉 節太郎



会員の皆様、明けまして、おめでとうございます。

ご健康でよいお年を、お迎えになりましたか。この一年が、皆様に幸せをもたらすよい年でありませうように、お祈り申し上げます。

さて、皆様の最も関心の深い、昭和五十四年度の年金改善問題の解決が、たいへん遅れていることを、残念に思います。

昭和五十四年度については、政府は、年金については、三・六%アップの案を立て、去る五月八日、第八十七通常国会へ提出したものであります。会期末の国会混乱の余波を受けて、審議未了に終わりました。そこで、九月三日開会の第八十八臨時国会へ再提出したものであります。最終日の九月七日、恩給法の一部改正案は通過いたしました。年金法の一部改正案は、遂に陽の目を見るに至りませんでした。

聞くところによれば、年金法の一部改正案の中には、年金支給開始年令の延長（現在五十五才のところを将来六十才という）の事項が含まれていたために、社会党その他の反対に遭い、遂に流産した、ということであり

ます。その後衆議院の解散総選挙、それに続く自民党の内紛等による政治空白のため、現時点（本稿起草の時）では、未だその見通しもつかない状態であり

ます。しかし、わたしの見るところでは、恩給のみ改善して、年金はこれを見殺しにするといった、片手落のことは、万々あるまいとは思いますが、しかし、それを手を拱いて傍観していただけないかと思ひ、去る九月八日、電退連事務局に対し関係筋へ、強力に陳情方取り計うよう要請したのであります。また十一月八日、高知において開催の、電友会四国連合会第八回総会においては、連合会総会の名において、電退連会長に対し強力に陳情取り運び方、電報で要請をいたしました。本部においては、在京理事を招集し、陳

情方手配をしつつあるやに聞きましたので、近く動き出すことと思ひます。

いずれにしても、恩給を改善しながら、年金がそのまま放置されることにもなれば、由々しき問題でありますので、こしはばらく政府、国会の動きを、注視する必要があると思ひます。

ところで、幸いなことには、永年参議院議員として、年金の改善に力を入れていただきました長田裕二先生が、このたび、第二次大平内閣の国務大臣として入閣せられ、科学技術庁長官に就任せられました。一議員としての立場よりも、国務大臣の立場においては、発言にも迫力が一層加わることと存じます。先生は今後も引き続き年金の改善には力を入れていただくこととありますので、皆様と共に、今後一層先生のご活躍を期待し、且つ祈りたいと思ひます。

電友会四国連合会総会

去る十一月八日、高知第一ホテルにおいて第八回総会が連合会役員十一名及び各県の会代議員六十一名をもって開催された。

会は泉会長のあいさつで始まり、藤田四国電気通信局長、本間高知電気通信部長からご鄭重なるご祝辞をいただきさらに勇士松山搬送通信部長、清水松山無線通信部長、野本四国友愛会長の祝電、参議院議員長田裕二先生、西村尚治先生のメッセージの披露のあと高知選出代議員大西正澄氏が議長となり次の議案について審議が行なわれいづれも原案のとおり承認または決定された。

- 一 会務報告（五三、一〇一五四、九）
- 二 昭和五十三年度収支決算報告及び会計監査報告

昭和54年度 組替 予算 (54. 4. 1~55. 3. 31)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
繰越金	55,394	分 担 金	50,000
会 費	247,000	旅 費 交 通 費	150,000
賛助金	473,600	会 報 発 行 費	473,600
バッチ販売金	57,600	バッチ買入費	54,000
雑収入	52,479	会 議 費	40,000
合 計	886,073	総会・理事会 編集委員会	5,000 35,000
		事 務 費	70,000
		通 信 費	42,000
		用 品 費	8,500
		刷 費	19,500
		雑 費	30,000
		予 備 費	18,473
		合 計	886,073

昭和53年度 決算 報告 (53. 4. 1~54. 3. 31)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
繰越金	86,838	分 担 金	30,000
会 費	222,000	旅 費 交 通 費	134,200
賛助金	459,200	会 報 発 行 費	459,200
バッチ販売金	33,990	バッチ買入費	49,500
雑収入	52,032	会 議 費	38,400
合 計	854,060	総会・理事会 編集委員会	4,300 34,100
		事 務 費	61,211
		通 信 費	34,407
		用 品 費	8,804
		刷 費	18,000
		雑 費	26,155
		繰 越 金	55,394
		合 計	854,060

三 会則改正（会則第四条及び第五条の電信電話事業の字句を電気通信事業と改める）

四 昭和五十四年度組替予算について

翌九日、同ホテルにおいて総会出席者と第十八回高知県電電公社退職者の会総会出席者を合せての合同懇親会が公社の主催で催され各県の会員と地元電電公社幹部との交歓の有意義な会となった。

総会開催に当り、電電公社並びに地元高知県電電公社退職者の会から格別のご配慮をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

電 電 德 島 温 古 会 総 会

第十八回総会は、十月三十日午前十時から徳島駅前阿波観光ホテルにおいて、会員二一名出席のもとに開かれた。

恒例により、亡くなられた会員のご冥福を祈念して、黙悼を捧げた後、豊崎会長のあいさつ、次いで大塚通信部長から、ごあいさつをいただく。

その中で「徳島報話局の営業棟新築の計画がある。会員の方々が、気安く出入りできる談話室的なスペースの確保に可能な限り努力してゆきたい」と私どもかねてからの念願に耳寄りなお話があった。皆さんとともに、実現に一層のご盡力をお願い申し上げたい。

参議院議員長田、西村両先生の祝電披露、新顧問の半明、中、両通信部長および新会員一二名の紹介後、喜寿二名、古稀一二名の会員に記念品を贈って祝意を表した。

続いて、豊崎理平氏を議長に選出して、議事に入る。五十三年度業務報告、同会計報告があり、五十四年度業務計画(案)、記念品弔慰金等の贈与金の増額、見舞金の新設等会則一部改正(案)について、それぞれ提案内容説明のうえ、審議に入ったが、別に意見もなく原案どおり決定された。

最後に役員改選に移り、豊崎会長の再任が満場一致で決定、会長再任のあいさつがあった閉会となる。

一同同会場にて記念撮影をして、正午過ぎ懇親会会場に移った。

懇親会は、大塚部長のあいさつ、豊崎会長の謝辞、松本徳島報話局長の乾杯で始まり、サークルクラブ、マジック会員による日頃習得の成果披露や、先輩の元気なのだ自慢など、

盃を重ねるほどに、なごやかな談笑は続き、そして盛会のうちに、お互いの健康を祈りつつ再会を約して散会となった。

愛 媛 電 友 会 総 会

第十八回総会は菊花薫る十一月一日、午前十時三十分から、南海放送本町会館七階キャッスルホールで開催された。当日は快晴に恵まれ、会員五二六名中三一四名が出席。堀内善一氏を議長に選び、泉会長のあいさつのもと、安部愛媛電気通信部長が祝辞を述べられ、全国自動化達成後の公社近況、将来の課題等についてのご抱負を承った。つづいて羽藤栄市顧問のご祝辞のあと、新会員の紹介、物故会員に黙祷、祝電寄付披露があった。議事にうつり、五十四年度会務報告と会計報告を承認、五十五年度事業計画と収支予算が決定された。また弔慰金五千元を壱万円に増額するなど会則一部改正についても原案どおり承認された。このあと古稀十二名、喜寿十四名の方々に記念品を贈呈、最後に役員改正にうつり、会長副会長を再選し、小林俊雄幹事の辞任に伴い、新たに田窪実氏を幹事に選任しその他の役員は全員再選され午後〇時半閉会した。

高 知 県 電 電 公 社 退 職 者 の 会 総 会

毎年十月開催の総会は、今年も連合会総会とのかね合いから、十一月九日九時からになった。更に来年からは五月開催が決定しているため、秋の期の総会は、この第十八回が最後である。

総会は駅前第一ホテル土佐の間で、会員一八名参加のもと、長崎副会長司会により開会が宣言されたが、例年と大きく違うのは、昭和五十四年度事業計画、同予算案の提案を、来年五月総会に譲り、この総会では審議しなかつたことである。

更に大きな違いは、毎年の年金は正が、この時期には決定済であるのに、今年も五里霧中、まだ目鼻がついていないことである。小島会長は経過報告の中でこの問題にふれ、「所謂生活法案を、二回の国会で審議未了にしたことは、一体政治家は何を考えているか判らない。年金の支給年令を六〇才にする改正案が、引上案と団子になっているから陽の目を見なかつたとも言われるが、大体これくらいの大問題を、利害関係を持つ人達のコンセンサスを得ずに、どうして団子にした提案としたのか、その辺のことも判らない」という批判を行ったのは当然のことと考える。

最後に西村、長田両参議院議員に対する共済年金受給者の処遇改善陳情を満場一致で決議し一切の議事を終り次のとおり役員を選出を行った。栄枝義実幹事辞任、新幹事に井上広次君、北村東稲君。新会計監査に沢千代吉君。その他の役員は留任となった。

四 国 連 合 会 初 の 米 寿 者

片岡友吉さんを祝う

菊花かおる好季節、十月二十八日の日曜日に、香川県三本松町のお宅を池田香川電友会長とともに伺った。

いっとき身体のごあいもあまりすぐれていないとおききしてただけに、実際お会いしてみると予想外にお元気なお姿に、ほっと安



片岡友吉さん近影

心するやら……。さっそく池田会長から「あなたが四国では初めての米寿第一号です」と四国連合会からのお祝を伝えると、「ほんとうにありがとうございます」と家族ともどもたいへん喜んでくださった。

病気で医者から好きな酒、煙草をとめられそれまで三、四合の晩酌をかかさなかったものをプツリやめてからは、めきめき健康を恢復し、今では元気になり過ぎて困っているぐらいだと笑っていた。このごろはやっと、チョコ三杯の許しが出てすこしは楽しめるようになった。毎朝、散歩がてらに近くの観音さまや不動尊のお参りは欠かしたことがなく、食べるものはうまく、よくねむられる。睡眠は十二時間位はとるといふ。また目も耳も達者で言葉もしっかりはつきりしていて、大正八年入社以来のよき昔の思い出話にも思わず力が入り、つきぬ話題に興ものたりした。そして、こうした平穩な生活ができるのも年金のお蔭だと感謝されていた。

池田会長から「まだつきは白寿がありますよ、せいぜい長生きしてくださいよ」と励ましのことをかけ、いっそうの長寿を祈りつつおいとまをした。

(香川・喜田記)

扶養控除等申告書

お出しになりましたか。提出期日は一月十日です。年金を主たる収入としている方で、年金の年額が六〇万円以上の方は必ず四国電気通信局職員部厚生課共済係あてご提出下さい。申告書余白には年金証書記号番号と自宅の電話番号の記入をお忘れなく。

また確定申告の期間は二月十六日から三月十五日までです。該当する方は最寄りの税務署に申告を行なって下さい。(忘れてならない年金ごよみ、会報第二十六号参照のこと)

秋の生存者叙勲

昭和五十四年秋の叙勲に愛媛電友会の内田龍雄氏と友澤照一氏が多年にわたり電信電話事業に貢献せられましたご功績により「勲五等瑞宝章」をお受けになりました。

私ども一同このころからお喜び申しあげます。

電気通信産業功労者の表彰

去る十一月二十日東京都千代田区霞が関、霞が関ビル、東海大学校友会館において第二回電気通信産業功労者として元木英之氏(鳴門)が社団法人電気通信協会より表彰されました。まことにおめでとうございます。

表紙のごとば

菊 莊野 丹秀(内海)

白い紙に黒い墨で心の旋律のまま画筆にのせて造形の変化を画けば紙と墨のとけあったにじみと濃淡が素朴と枯淡な画境を表現する水墨画。病院生活のつれづれベッドの上で画いて見る。

余 栄

ご逝去されました左記の方々に対し多年電気通信事業に貢献されましたご功績により叙位叙勲が授与されました。

従六位勲五等瑞宝章(五四、五、一五)
故 三津山勲三郎殿(松山)

勲 七 等 瑞 宝 章(五四、六、七)
故 濱野喜代子殿(丸亀)

正七位勲六等瑞宝章(五四、六、八)
故 仙波 粒殿(松山)

従七位勲八等瑞宝章(五四、七、一二)
故 勝田 進殿(松山)

訃 報

次の方々の方が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	死亡月日	行年	所属
大黒 豊一殿	54.10.26	七八	丸亀
真鍋 忠殿	54.11.15	七八	新居浜
豊崎 理平殿	54.11.16	六四	徳島
深田 正義殿	54.11.17	八〇	高知
田中 隆殿	54.11.21	五九	土佐中村

電話のかけ方のポイント
番号は記憶にたよらず確めて!

電話番号を確かめにダイヤルするのは「まちがい電話」のもと。料金と時間がムダになるばかりか、相手にも迷惑をかけます。良くかける相手の電話番号はメモ帳に記入してください。



共済会だより (い)

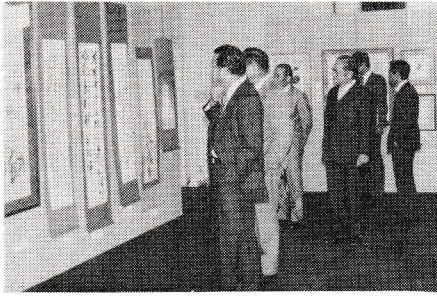
電気通信共済会四国支部
福祉相談所

◎趣味の作品展大盛況でした

さきに、電友会報等でご案内しておりました電電退職者等の「趣味の作品展」は、十一月六日から九日まで、新装落成の電電会館で行いました。

この作品展は、電電公社を退職された方々の「生きがい」や「生活のうるおい」に役だちたいという趣旨の《退職者文化活動援助事業》の一環として催したのですが、予想以上に大ぜいの方から力作を多数ご出品いただき、また、ご鑑賞に来館された方も四日間四〇〇名を越すという大盛況でした。出品の種目が多く、その内容もバラエティーに富んでいるので、大変楽しい作品展でした、とのお声も多くの方からいただきました。

ご出品くださった方は、次のとおりです。おやっ、あの方がこんなことを、と意外に思われる方が沢山あると思います。どうぞご参考に。



中央は藤田四国電気通信局長

○洋画 (一五点、六名)
門屋俊春
齊藤五郎
高松満利子
橋本良次
原田重明
藤原重明
今井麻一
黒田富一
佐久間由夫
庄野孝
大藤ゆり子
松本満子
横山進

○日本画 (一八点、八名)
風景、花、人物
リス、カニ、菊
風景 (三点)、竹と雀
絵馬習作
君子蘭、花菖蒲
曼珠沙華
阿弥陀如来画像、宵
秋のぼら、ざくろ
はまゆう

○書 (二一点、一七名)
七言二句、雪月花
権中納言定家の歌
五言絶句
竹里館、佳句
(このほか、電通共済会書道サークルの協賛出品、一五点、一三名)

○俳句 (二七点、九名)
上田敏春
尾下正澄
大野正義
川口富美恵
須賀初子
橋本豊昇
横山竹義
今井麻一
上田敏春
東田ゆり子

○俳画 (一六六、四名)
そらまめ、兜
こけし (二点)

○写真 (五一点、三名)
シャモニの印象
よだれ、光と陰、そてつ
蓮、枯れすすき
阿波踊(1)、同(2)
ミス・フオートジャケット
南の海、孫
盆栽 (二八点、九名)
さつき (二点)
五葉松 (二点)
姫りんご
五葉松 (二点)
黒松 (五五点)
ひかげつじ
さつき
万年青 (三点)、観音竹
さつき (三点)、けやき
ヒガクシダ、うめもどき
東洋らん、もみじ (二点)
その他 (四二点、一六名)
花台、短冊掛 (各二点)
帆船模型、競艇模型
高速艇模型
木ばり (帽子掛)
抹茶茶碗 (二点)
くみひも
抹茶茶碗 (三点)
押絵 (二点)、羽子板
人形
樺の根っ子、短冊掛
樺の根っ子丸太
紙細工など (四種)
拓本 (三点)
木ばり (盆)
和紙人形 (三点)
玉すだれ、ホウキ (六六六点)
桜の木、根っ子
松の木、根っ子
渡部儀平

藤原重明
青野茂樹
賀川明孝
長谷川茂

上田敏春
亀田政雄
栗田進一郎
筒井治直
福岡秀三郎
森内義高
山内義平
渡部義綱

今井麻一
青野茂樹
今井麻一
今井麻一
今井麻一
今井麻一
今井麻一
今井麻一

尾下正澄
大野正義
川口富美恵
須賀初子
橋本豊昇
横山竹義
今井麻一
上田敏春
東田ゆり子

上田敏春
尾下正澄
大野正義
川口富美恵
須賀初子
橋本豊昇
横山竹義
今井麻一
上田敏春
東田ゆり子

上田敏春
尾下正澄
大野正義
川口富美恵
須賀初子
橋本豊昇
横山竹義
今井麻一
上田敏春
東田ゆり子

上田敏春
尾下正澄
大野正義
川口富美恵
須賀初子
橋本豊昇
横山竹義
今井麻一
上田敏春
東田ゆり子

上田敏春
尾下正澄
大野正義
川口富美恵
須賀初子
橋本豊昇
横山竹義
今井麻一
上田敏春
東田ゆり子

OBサークルだより

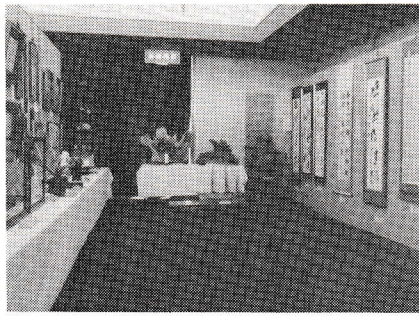
電電OB親善軟式庭球大会記

台風二〇号のため延期になっていた大会も晩秋の松山城を背景に十一月二十四日松山市宮堀之内コートにおいて、東海、近畿、中国の精鋭を迎えて地元四国勢併せて四十余名、七十六才を筆頭にして熱戦を繰り広げた。終って懇親会を開いて和気藹藹裡に解散した。成績は次のとおり

地区対抗、一位近畿、四国A、四国B(同率首位)、四位東海、五位連合チーム(近畿、中国、東海各一組にて編成)

個人戦、準優勝早川稲岡(近畿) 4-0 吉村溝田(四国)、越智木村(四国) 4-1 田中二宮

(四国)、優勝戦 越智木村 4-3 早川稲岡 (木村記)



展示会場風景

伊方原子力発電所見学記

久米地区居住の電電OBの集い(日尾クラブ)で秋の行事として、十月十四日の日曜日伊方原子力発電所の見学を行った。

参加者は家族を含めて二十六名、借り上げバスで午前九時松山を出発し大洲、八幡浜を経て伊方町の四国電力伊方発電所伊方ビジターズハウスに正午到着。休憩所で予約の折詰弁当で昼食の後、幹部職員案内で四軒離れた発電所に下り、所在の建物等を巡回し種別や役割りの説明をきいた後再びビジターズハウスに戻り館内で発電所の施工から完成までの記録映画を見せて貰い、さらに館内展示の模型や図解で原子力による電気出力までの詳細な説明をきいた。最後に屋上の展望台で伊予灘に面する発電所の全貌を見、青い美しい海の眺めに目を見張りながら見学を終った。帰途内子町で旧道の古い建物を鑑賞し午後五時半帰松した。

当日天候は秋晴れの快晴、長距離走行の疲れもなく全員元気はつらつ意義ある見学に満足の面持ちだった。(松山H生)

徳島俳句サークル

眉山は、阿波のシンボルとして、日々の営みの中に親しまれ、大きな、よりどころとなつて居るものであります。その眉山の秋、との意をそのままに、「眉山」と名付けて昭和五十三年九月に発足した俳句会は、初心者を中心とするやさやかな構成であります。毎月の例会も欠かさず、和気藹々のうち研鑽を重ねております。(長島記)

工場の誘致むなしき大枯野 青山清澄
出ればすぐ枯野へつづく里外れ 太田稲雨

やまもも句会(高知)

—— 国分寺吟行より ——

過ぎゆきて女枯野の人となる 三島花人
水仙や入日寒うに山に入る 安淵句青
留守番のひるげ一人の秋刀魚焼く 森田南斗
紅葉散る索道空に無人駅 森 光葉
コスモスも咲いて暑さの残りけり 田尻豊水
老妻と庭一ぱいの菊の鉢 長尾我人
時雨くる雲や眉山の頂きに 豊崎雲庭
ブロッケの蔭に溜れる落葉かな 原 雲舟
大霧や柿の葉落つる音一つ 柏木一畝
庭先の草一面の露時雨 日開桃花
ゆれ動き色あざやかな女郎花 金丸正雄
新緑に鈴の音つづく白水山 川原よして
秋草の土手に電柱一つ立つ 広瀬琴水
風に来て芒の多き道に出し 長島正雅

以上(順不同)

天平の礎石を埋む苔の花 瓶子
減反の花蕎麦匂ふ史蹟道 花子
風通る道あり蕎麦の花ゆれて と き
いつの間につきしか裾の草風 啓子
百舌鳥猛る寺の杉生苔深し たかほ
秋暑しゆっくりゆっくり歩いても ひろし
碑のほとり枯ゆるやかに国術跡 露 風
国術の碑秋風の吹く只中に ひろみ
萩終り蝶のかがようばかりなり 三千代
野を渡る風花そばをなびかせて 佳代
国府跡畑といふ畑そばの花 ただお
杉落葉古刹の屋根に秋の風 幸子
台風去り虫の音高くなりけり 幾久子
耕して暮れ早き畑鴨高音 隆
航跡の長く尾を引く良夜かな 登喜子
濡縁の秋の日に濡れるる如し

特 集

申の年に

ちなんで



大野 峰生（松山）

大分県の高崎山はじめ全国各地で猿を餌づけして、猿の生態、生活等が観察調査され解明されている。それによると猿の社会は非常に厳格な階級制度が行われているがこの階級のランクづけは専ら実力即ち腕力によって行われている。人間社会のように学歴や門閥・袖の下・コネなどによって左右されないし、年功序列もない。ただもう実力だけの社会である。そしてそのランクは流動的で終身制はない。大ボスと雖も年をとって体が衰え弱くなったと思われると、ボスとボスの階層の中で自信のある奴に闘いを挑まれ、負ければあわれにも群から追放されて老残の身を放れ猿として一匹で淋しく放浪しなければならぬのである。同一階級にある猿同志の間でも常にランクの上るのを狙って、アイツ俺より弱いと思ったら喧嘩を挑んで勝負する。勝った奴は負けた奴に馬乗りになって勝を確認させる。こういう事は野生猿だけでなく動物園で飼われている猿でも同じである。更に面白いのは人間の家庭に飼われた猿でも、その家の人間と猿自身との間で、ランクづけをする。假りにその家の奥さんが毎日餌を与えると、猿はこの奥さんをボスとして尊敬する。生きる上に最も大切な餌を自由にしているから一番偉いと思うのであろう。その次に偉い（強い）のは猿自身であるし、以下は見かけの強そうな順にランクづけをする。そして己より

下位の者に何か気に入らぬことがあると、威嚇したり、実力行使をしたりする。このとき人が腹を立てて棒切れでどやしつけて猿をやっつけても猿は自分が負けたと思わない。アイツは棒切れを持っていたから俺がやられたので素手なら負けはせんと思うのだそうである。だからほんとうに猿に負けましたと認めさせるためには素手で喧嘩して、なぐり、かみつき、ひっかいて、猿に悲鳴を上げさせなければならぬという。

滝沢 一郎（伊野）

吾家には申年生が三人いる。小生七十一才と息子の嫁三十五才、それに十一才の孫娘である。十一才の孫は将来を夢みて胸をふくらませている。三十五才の嫁は吾世の春と人生を楽しんでいる様に見える。さて、私は大正十四年、日給八十五銭の電話工を振出に戦時中はスマトラ迄足をのばし四十二年間勤めさして貴い退職後は東洋電機通信工業徳島・高松・高知の各支店長を勤め月給生活五十年にピリオドを昭和五十年に打ちました。

晴耕雨読をと思つて退職しましたがそうは問屋が卸ろしてくれず公民館長、神社総代、社協の評議員老人クラブ会長と結構忙しい毎日、それに加え蜜柑、ぶどう等約八反を老妻と作り週休二日の息子をたよりにやっているものの最近はおまじぎみである。

この七十一年間実に色々なことがありました。無茶苦茶に働き遊びもしました。この無茶がたたり結核で二度も入院しさらに病氣という病氣は大概やって来たのに不思議と悪運強く今日までどうにか生きて来ました。この頃老妻と二人で旅行や寺参りに暇を見つけて行っています。

お四国も一度巡拝しましたが今一度巡拝し写真帳を作りたいと思っています。先日室戸に遊んだおり老遍路が犬を連れて津照寺に登って行くのに会い、ご苦労様と声をかけると黄色いお札（百回以上巡拝をした人が納める札）を私にくれました。その元気な足取をみて、私もまだまだ元気で頑張らなくてはと思いました。

千代 義雄（善通寺）

善通寺報話局を退職して早や十三年の年月が流れ去りました。去りゆくことの早さをつくづくと感じています。公社に勤めたお蔭で電友会総会やまた十月三十日の電電記念行事の一環としての御招待にまであずかり本当によろこんでおります。その都度会員皆様の御健康な顔を拝見してなつかしく思っています。申年生れとして何か書くようにとのことでしたので、以前旅行したとき感じた事を書いてみます。昨年秋別府へ団体で十日の予定の入湯に行きました。高崎山にいきましたら沢山のお猿さんがいました。世話人が昼の餌の麦を取りに行きましたところ今まで居た猿より一段と沢山の猿がどこからともなく、いつの間にか集ってきました。

世話人の姿をかい間みてやってくるのか、或は昼の餌の時間を知ってやってくるのか、人間の子供より手のかからないこと。またはみをやしかけると目の前にいる頭のよさそうな、そして利巧そうな一匹の猿の振る舞に感心しました。それは麦を投げてやると麦の飛んでくる方向に向き口を開けて来る麦をばくばくとたべるのです。他の猿は落ちたのを一粒一粒拾って食べているのですがその一匹だけは全く別で頭の良さには我々人間より勝

っているのではないかと一寸考えさせられました。旅で見た猿についての感想を述べて一応の責任を果さしていただきます。

野本 幸馬 (土佐)

私が公社を退職したのは昭和四十一年の春でした。在職中の後半は持病の本態性高血圧症のため、何時たおれるかも知れないような状態でしたが幸に今日まで生きてこられたことは不思議に思うくらいです。その後十四年あまりも尚健在で来年は第六回目の申年を迎える譯ですが其の間私には忘れられないことが一つあります。退職して五年目の四十六年の夏の頃私は或る病院で胃ガンの宣告を受けました。しかも相当進んでいて長くても一ヶ月位の命であるとのことと、とりあえず手術をすることになり胃を切開してみると胃ガンではなく「スイゾウノウシユ」と云う病であつた譯で今も一年に一回は胃の精密検査をうけていますが異状ないとのこと安心して居ります。

併し持病の高血圧は仲々着かず時には最高二〇〇以上となつた事もありました。それで私は医師の薬のみに頼ることなく専ら食養生と高血圧によいといわれる事は必ず実行して来ました。青竹ふみ、ぶらさがり運動、軽い散歩など一日三回は必ず行いました。どれが効いたか分かりませんが最近では体の調子も良くなり高かった血圧も正常に戻り安心して居ります。私の家では親兄弟とも短命で若死しましたがこの分だと日本人の平均寿命までは生きていかれるように思います。子供達のない家庭では老妻と二人きりで静に平和な日々を送っております。来年は当氏神様のお当屋も引きうけましたので体を大切にしてい

がなく其の責務を果して行き度いと思つています。

濱口 徳幸 (松山)

明治四十一年戊申二黒土星と云う星の下にこの世に生をうけて六巡目を迎えました。実に歳月の流れは文字通り光陰矢の如しの感があります。喜びも悲しみも幾星霜とか私の七十二年の人生航路それは悲願の殿堂人生のパラダイスにはほど遠い洋上に在りいまだ小さな伝馬船で、或は風波に苛なまれつつも明日の天候はひたすら平穩であることを念じ喘ぎながらも漕ぎ続けてきたに過ぎません。運命と云えばそれまでですがやはり素質もなく人間としての考え方や努力の不足だった故でしょう。後悔は先にたたずの喩え、所せんはボス猿になり得ない平凡な猿の類でしょう。

でもこの世の楽天地と云えども健康でなければ幸福はありません。船頭の私が病弱だったら一家は更に悲惨だったでしょう。私は恵まれた唯一の健康を神に感謝しています、そして仮令遠いユートピアの灯りは遙かでも明日の奇跡と天祐を祈って老骨に鞭打更に頑張って行きたいと思つています。

真鍋 仲義 (多度津)

退職してからでも十二年を過ぎ年は七十一才、どこへ行っても老人扱ひされるようになってい

現在には三〇アールの田の稲作と三アールの畑の野菜作りを老夫婦二人でやっている。

私の日課は朝の四時頃から始まる。晩に寝るのが早い四時には目がさめる。身体が健康なためか、のどがかわき空腹を感じるの

で牛乳を温めてパンを一片食べる。それから雑誌や本を暇つぶし程度に読んでいると五時半頃に新聞が来る。それを読んでいるうちに七時になりテレビのニュースが始まる。食事をしながら八時半までテレビを見て、それから庭の草けずりや掃除をして九時過ぎから私の本職の内職が始まる。その内職とは丸亀に本社がある四国化成会社の仕事で壁のカタログを作る仕事である。私は専ら左官仕事、鏝で壁の塗料を厚手の紙に塗りつけそれを板に載せて棚に差入れたり、クリップで吊って乾かすのである。乾いたものを所定の型に千切つて数種の色を組合せ糊づけして体裁よく仕上げる。建築の時に業者が壁の選擇用に見せてくれるカタログの中に私の製品が入っているかも知れない。立ってするので足も手も使うので、かなりな重労働ではあるが六年半位続けているので一日六時間は働いているがそうきついとは思わず自由労働であるから退屈しのぎのつもりで、また、これが「私の健康法だ」と思つて楽しく仕事をしている。

朝早いための食事をすまずと眠くなるので一時間位昼寝をする。この昼寝で体の活気が蘇るような気がする。

食事で変っているのが、梅干しとサツマ芋を毎日欠かさないことである。体の酸性中和と便通をよくするためである。

秋山 秋則 (丸亀)

申年の生まれには百姓の小作から天下を制覇した太閤秀吉、大盗賊の石川五右衛門など善悪それぞれはあつても、総じて庶民的で小まわりがきくと書かれています。私は当るも八卦あたらしめ八卦とあまり易を気にしない性です。それでも干支の一巡をおえて還暦

を迎えると、厄払いには神詣でをし、子供達が集まって祝つてくれると、やはり古来からの暦法によるしきたりのよさも感じます。

申は季節でいうと八月にあたりますが、八月は稲の穂がふくらみ、やがて首を出して花を咲かせ、まさに結実しようとする農にとっては一番大切な恵みの時節です。申の象形文字は立て棒を両手でのばしている形態ですが、私には大地から生えた一本の草木の芽を両手でいとしんでいるようにも見えます。何時も大自然の限りないはぐくみに対して、この恩恵を両手でお願いただく気持ちを忘れたい申でありたいと思います。

申はまた時間的には午後四時過ぎにあたりますが、一日の激しい労働もおおむね終りに近づき太陽も西の方に傾いてくる時刻です。丁度私の人生の今の刻のようです。西の山に傾いた人生ではまず健康第一と思いつながら、昨年は体力の過信から入院生活を味わったので、今後は体力に合せて土の中に生きる閑静な人生を過したいと念願しております。

池田喜代美（鳴門）

私もいつしか干支（エト）を五周して「サル」の当り年を迎えることとなった。

これまでよく無事に馬齢を重ねてこられたものと、寝床でちよっと感慨に浸る程度でこれといって格別の実感がわいてこなかったのが真相であった。これも高齢化社会に対応した感覚の影響でなかるうかとも思ったりした。近時、人生の祝祭儀式に数えられ古くから行なわれてきた「還暦の祝」または「本卦還りの祝」ともいわれ、六十年で再び生れた年の干支に還るといって男女六十一才の誕生日に行なう祝いごとがあった。が、高齢化社会

に進むにしたがい、それに該当する国民の数があまりにも多くなり、さらに社会事情の多様化などからも、それらの祝いごとが祝いごとでなくなりつつある世相でもある。また、少年期、青年期とか壮年、老年期などの時代名も変わりつつある。壮年と老年のあいだに、「熟年」と言う言葉が挿入しはじめている。いわゆる人生の何事にも精通しよく慣れたいわば工場の熟練工とでも言うのでしょうか。肯定したい言葉でもある。

ともあれ「還暦の祝」ごとなどが稀有になりつつある高齢化社会に対応して何かライフワークを求め人生の生き甲斐とし、これからのセカンド・ライフを楽しく過したいものと念願している。

今年の当り年を絶好の機会とし、それが求められるように努力もし、研さんもしたいと静かに、はりきっている新春の朝である。

原 清司（坂出）

昨年末小学校時代の同級生と会ったとき、「来年は還暦だから一緒に集って神社でお払いをして貰って、その足で何処かへ旅行しようではないか」と云う話が出ていたが、良かったら一緒にどうかとさそわれたが、もうそんな年になったのかと今更乍ら驚いた次第、その矢先年男として何か書くようにとの注文を受け、そう云えば今年は申年だなあと自分の呑気さにあきれも、まだまだ若い積りであったのに還暦などと更めて年を思い出し、何だか爺くさくて嫌だなあと云う気がしないでもありません。

終戦時、そして長い寒いシベリヤでの抑留生活を経て一時は運命と云うものはあるかも知れないが神も仏もあるものか云う思いが

強く、四二の厄にも格別の事をするでもなく干支などは迷信に過ぎぬと意識的に無関心を装い出来るだけ無視するようにして過して来たような気がします。と云っても、よく考えて見ると吾々日常生活の上で冠婚葬祭建築などもろもろの行事にこれらのことが如何に根深く深いかわりをもつものであるか図り知れないものがあります。にも拘わらずその根柢を知る人も少ないのではないのでしょうか。参考に辞書を開いて見ると次のように記されています。

十干十二支略して干支（えと）という。中国の暦法による周期の名称である。十干は一旬すなわち十日のことで、これを表わすに甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の文字を用いた。十二支は一年十二か月にそれぞれ天象や気象や年中行事にちなんだ符号をつけその一二符号を子丑寅卯辰巳午羊申酉戌亥の一二字をもって表わしたのである。この十二字にそれぞれの動物名をあてて鼠牛虎兎竜己馬羊猿鶏犬猪と十二支獣などと呼んでいるがこれらの文字にはそのような意味はなかった。

中国では十干十二支を一干一支部つ組み合わせて六〇周期をつくり、これで日を数えたがのちには年や月をよぶようになった。したがって甲子にはじまるとすると癸亥で六〇になり六一になるとまた甲子へ戻る。人が六一歳になると還暦とよぶのはこの理由からである。干支は中国の陰陽五行説と結びついて日の吉凶、人の性質運勢などを判断するようになって種々の俗語、迷信を生んでいる。十二支はそれぞれによって人の生れた年を知る便宜はあるが寅年生れの人気が荒いとか、丑年生れの人気が長いとかいうことはまったく無意味である。丙午などはもっとも弊害が多く

を始めました。

四国各県で勤務させていただいた関係もあって二度巡拝することができました。

妻も旅行がすきで二人で旅を楽しみ気分転換を行ないこれからの一日一日を大切に余生を送りたいと願っております。

三橋 秀男 (徳島)

明けましておめでとうございます。
一九八〇年の新しい年を迎えるとともに、五度目の申年を迎え、意義のある年であると思えます。

そこで私は今年から健康維持のために一層足腰の安定強化を図ることに努めたいと考えています。

早朝五千歩運動、上半身の柔軟体操、入浴時に屈伸運動を行うなどを長期継続実施のほか、適宜にゴルフを楽しむこと。

また、可能な限り旅行に出かけ、各地の名所旧跡等をも訪ねて見聞を広め楽しみたいとも思っています。

村川 清子 (高松)

私は大正九年生れの申年です。私の母も明治二十九年生れの申年で、我が家には申年が二人います。その上もう一つ申年のものがある、梅干なんです。申年の梅干って御存じでしょうか。今年八十四才の母が十二年目毎にむかえる申年には例年以上に多くの青梅を買込みたんに梅干をつくるんです。申年の梅の実の種類が小さく果肉があつてやわらかだそう。その上古来より万病にきくと言いつたえられていて珍重されて来ました。買いたてたえられていて珍重されて来ました。そのあと塩漬けにして天候をみすましてかこ

一粒ずつならべ雨にあわさぬ様子を配りながらコロコロところがして天日に干し、かわいたカラカラ梅を三日三晩の土用干しをして夜露でやわらかくなると赤しそと共に酒と梅酢に漬けてみ冬頃まで暖い日当りの良い所へおくとやっとなりまします。その間の手間は大変なもので子供心にも母が毎年つけこむわずかの梅でも手数がかかるのに申年には幾籠もつくる梅干に汗をながしているのを気の毒に思っていました。そして出来上った梅を年号を書いた壺に入れ大切にしておきました。私が風邪を引いたり腹痛をおこした時などに白いおかゆに、しそで赤くそまつ申年の梅干をのせて食べさせてくれたものです。近年母も年のせいか身体が弱り梅をつけるころに入院してたりして、普通の年の梅がなくなり申年の梅をつかった為、大切にしていた申年の梅が少くなり残念がっています。申年の梅なんか迷信と笑われるかもしれないが小さい時から母のすることを見て育った私には迷信と笑いきれないものがあります。今年には待望の申年です。初夏になり青い梅の実がマーケットの店頭にならび始めたら年老いた母のためたくさん梅の実を買い集め、よろこばして上げ様と思っています。

高井 弘二 (観音寺)

一九七六年春、市議会活動に専念するため退職してはや満四年が来ようとしています。善通寺にあった四国通信講習所へ入所してから二十九年間、仕事の面、労働運動の面で、会員の皆さんには色々お世話になりました。誌上をお借りして厚く御礼申しあげます。さて、申年にちなんで、このことですが、この誌上では、おそらく私が最も若い申年で

しよう。今年は、石川達三の「四十八才の抵抗」ではありませんが、政治に対する慾求不満を大いに追求してゆきたいと思えます。

そのためには、なんと言っても健康第一。猿のイメージは、精悍な、やせぎすの中にこそあり、太めの猿ではいただけません。そこで今年こそは、少しでもやせる努力をしたいと一念発起、昨年末から予行演習をして元旦には八十キロに調整。「ヨイ、ドン」でスタート。一九八〇年代当初から、この方は時代逆行、一年に一キロやせるとして、六十八才の二〇〇〇年には六十キロ。今迄、何回も決意しては失敗してきた減量作戦も、このよくな遠大かつ、緻密なプログラムなら成功うたがいなし。その時、外野席から「それは、いつまでたっても猿になれない。おとうちゃん狸の皮算用」そこで私「何を言うか、今年は当り年だゾ！」



福田秋風郎 (松山)

温泉へ隣送って寝正月
年に一度苦手な筆を持つ賀状
お年玉二三四五孫の数
衣食住値上げムードの年明け
古き佳き頃をまた言う屠蘇気嫌

合田 勇 (松山)

冬そこに身支度急ぐ落葉樹
老婆とテレビへ更ける小さい幸
旅行にも薬を供に老夫婦
減反の死角あわだち草が伸び
一年は長し短しカレンダー



三えんの男

随

筆

江戸野 仇 (高知)

ぼくは、今だから、ラブレターを買って、見たことがない。従って恋のささやきを、聞いたこともない。だから、恋の経験を、人に云ったこともない。

いまこの齢になって、何故だろうと考えてみると、ぼくは明治四十一年生れの申の歳だったかららしい。

これでは、恋にエンのないのも、あたりまえかも知れない。

その代りに、ぼくは若い頃から酒を愛し酒を好む。しかし、適量以上は敬エンするので猿も木から落ちるような真似はしない。

と、いつもそのつもりではいるのだが……

猿 酒 考

山田加賀子 (松山)

私は若い頃はよく山に登った。しかしそれは登山などというような大仰なものではなくまあハイキング程度の往復二、三時間程の低い山を歩くのである。ある日どうした加減か道に迷って今迄通ったことのない道もろくに無いような所に出た。どうせ深山と道に出るだろうと歩いていくうちに大きな岩場に行き当たった。とたんに猛烈な良い匂いがして来た。酒の匂いである。大きな岩の窪に落葉が積んであってその下から匂ってくる。

これが話に聞く猿酒かもしれんと夢中で落葉を掻きのけてみると、液の中に山葡萄などの木の実が浮いている。早速手ですくって吞んでみるとそのうまいこと、我を忘れてすくって吸んでいるうちに酔って寝込んでしまった。そのうちに帰って来た猿共、空巢狙いだ、酒盗人だと散々こづきまわされ悲鳴を上げてとび起ると、お客さん起きて下さい、もうかんばんですとつつかれていた。

以上は私のフィクションであるが、猿酒は実際に存在するのか、或はしたことがあったのかと思つて広辞苑をひいてみると「猿酒は猿が木の穴または岩石の凹所などに貯えておいた木の実が自然に発酵して酒に似た味になったもの(俚言集覧)」とある。この猿酒の典故である俚言集覧という本は江戸時代の俗諺のたぐいを集めたもので科学的な裏付はない。猿が蟻や栗鼠のように食物を貯蔵する習性があれば猿酒の存在もありうるわけであるが、さてどうであろう。私はテレビで見た下北半島の猿の生態を思い出している。それは北国の猛烈な吹雪の中で、猿が木の皮や小さな固い木の芽を寒さにふるえながら噛んでいる姿である。若し猿に食物を貯蔵しておく習性があったらこんな姿を人間共に見られることも無いであろうに。

味 覚 音 痴

田中 義隆 (松山)

久保田万太郎氏の句、「湯豆腐や持葉の酒の一二杯」が句会で黙殺され、それを後で小唄に作り替えた。「湯豆腐や、持葉の酒の、一二杯、寒おすな」で見事に決まった。

辻留主人・辻嘉一氏の「現代豆腐百珍」の序文に、文章でなく小唄を書いている。

「身の冬の、とどのつまりは、湯豆腐の、あはれ火かげん、うきかげん、月はかくれて雨となり、雨また雪となりしかな、しよせんこの世は、ひとりなり、泣くもわらふも、せらくもわらふもひとりなり」(以上、車谷弘氏著「わが俳句交遊記」所載)

しみじみとしていて、これでは一杯飲まずにおれまい。しかし、どちらかというと私はこつてり好きで、すき焼の方がよい。「あなたからだには毒ですよ」と家内にしかられながら、肉をあさつていたりする。

というのも味覚音痴で、年をとってもこまやかな味がわからない。あるいは飼いやすい人間なのかもしれない。

錬 成

藤田 基孝 (宇和島)

小雨にけがる河内平野に白雪を頂き、高くそびゆる金剛、葛城、二上の山々が正面に見える羽曳野の丘にバスより降りる。

開講式が行われる錬成会館の大講堂に全国より集りし男女八七〇名の会員が詰り、その中には老耄れの私も交っている。

雨で野外錬成が中止となり、館内清掃の為男女全員純白の錬成服に身をかため、地域毎に色変りの鉢巻も凛々しく、編成された班毎に班長の吹く笛が耳に響く。リズムミカルな笛と掛声の調子に勇しく廊下も階段も一斉に冷たき水で、苦しさも忘れて拭いてゆく。中には感激の涙に頬を光らせ、或いはへこたれて坐りこむ者もいる。又女性の中から選ばれし幾組は炊事に繕いに精を出しているらしい。

地上六階地下二階の大殿堂もこの人海作戦には忽ち作業は終るが錬成だからやめる訳にはゆかない。幾度も同じ廊下に笛と掛声の勇

しいリズムがぶつかり合う。
 斯くして夕食となり八百人収容の大食堂も
 入り切れず、思い切り汗を流した後の飯は実
 に美味く、おかわりがはずむ。

とっぷりと昏れし羽曳野の丘に聖火の点る
 頃、我々の尊敬する教祖の奥津城に参拜、特
 に消灯されし暗き道を静粛に行進すること約
 三十分、木立に囲まれし前面に大きな半円球
 の奥津城が闇の中に幻の如く、風に吹かれ燃
 えて流れる一つ炎の前で一人の導師によりて
 一齐に礼拝し暫く祈念を行った。

身を切る様な金剛嵐の中を駆け戻りて入浴
 心身共に充分温りて安らかなる眠りに入る。
 二日目は前日同様の作業のあと大講堂に登
 り、心の持ち方が肉体に及ぼす影響等、精神
 の浄化と錬磨に関する有意義な講義を聞き
 大いに感銘する。

昼食後錬成服を私服に着替えて心を和らげ
 冬日射す丘をよぎりて茶会の席へゆく。
 薄紫の和服の麗人に迎えられて茶室に入れ
 ば優雅なる琴の音は室内に満ち、釜の湯気は
 後の金屏風に影を引く。甘き菓子のもとに啜
 るお茶の香は運び来し麗人の姿と共に、又格
 別の味わいであった。

旅

玉川 都夢 (松山)

太平洋から吹き寄せる海霧で視界はよくない。
 スカイラインは岬の先端へ曲状線を描い
 て一気に下ってゆく。

暖房の効いた車を降りたが、海霧のためか
 外気の冷たさをそう感じない。ときおり海霧
 の切れ目から幻のように怒濤がくだけは消
 えてゆく。

もう少しゆけば紅い椿が散っているだろう

が残念また雨風が強くなって来た。

岩礁を潮攻めめぐり寒明くる

紅椿道ゆらぐかに濤くずれ

道ゆらぐ怒濤に落つる紅椿

数年前市の広報委員をしていたときの研修
 旅行をしるした私の句帳の一ページである。

旅はいい。いつまでもあの情景が喉に浮ん
 できて老いてゆく私のところに、美しくうる
 おいを与えてくれる。

短 歌

山内 旬一 (松山)

月讀の光は杉群の秀をおほひわが宿坊の畳あ
 かるむ

比叡にゆくバスの乗客は吾一人右滋賀の里と
 おしへられつつ

やはらかに襖にさせる朝のひかり冬の匂ひと
 ひとりむかへり

藤田 基孝 (宇和島)

北の海に拾ひし流木杖にせむと研けば堅き年
 輪いでぬ

たくましく立つ岩が根にまつはれる霧の動き
 て山しらみきぬ

吾が喜寿を祝がむと君はつやつやしき栗を一
 籠提げて来ましぬ

投 稿 規 定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
- 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
- 三 随筆、随想 六〇〇字以内

原稿締切 二月一〇日

原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編 集 後 記

▽新年おめでとうございます。

恩給の五十四年度改定は去る九月七日、衆議
 院解散まぎわになつてようやく通過成立をみ
 ましたが、同じ生活法案である共済年金の方
 は遂に日の目を見ぬまま衆議院解散後の臨時
 国会にまわされ十二月十日やと衆議院を通
 過し、同日参議院へ回付されましたが、参議
 院内閣委員会は十日をもって終了のため同委
 員会において継続審議と決定し、来る十二月
 二十一日開催予定の第九十一通常国会の開会
 劈頭に上程同日中に衆参両院を通過する予定
 とのことです。言いたいことは多々あります
 が新年の贈りものとして是非成立さしてほし
 いものです (玉川)

電友会四国連合会会報 第二九号

昭和五五年一月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(二七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社

しいリズムがぶつかり合う。
斯くして夕食となり八百人収容の食堂も
入り切れず、思い切り汗を流した後の飯は実
に美味く、おかわりがはずむ。

とっぷりと昏れし羽曳野の丘に聖火の点る
頃、我々の尊敬する教祖の奥津城に参拜、特
に消灯されし暗き道を静粛に行進すること約
三十分、木立に囲まれし前面に大きな半円球
の奥津城が闇の中に幻の如く、風に吹かれ燃
えて流れる一つ炎の前で一人の導師によりて
一齐に礼拝し暫く祈念を行った。

身を切る様な金剛風の中を駆け戻りて入浴
心身共に充分温りて安らかなる眠りに入る。
二日目は前日同様の作業のあと大講堂に登
り、心の持ち方が肉体に及ぼす影響等、精神
の浄化と錬磨に関する有意義な講義を聞き
大いに感銘する。

昼食後錬成服を私服に着替えて心を和らげ
冬日射す丘をよぎりて茶会の席へゆく。
薄紫の和服の麗人に迎えられて茶室に入れ
ば優雅なる琴の音は室内に満ち、釜の湯気は
後の金屏風に影を引く。甘き菓子のもとに啜
るお茶の香は運び来し麗人の姿と共に、又格
別の味わいであった。

旅

玉川 都夢 (松山)

太平洋から吹き寄せる海霧で視界はよくない。
スカイラインは岬の先端へ曲状線を描い
て一気に下ってゆく。

暖房の効いた車を降りたが、海霧のためか
外気の冷たさをそう感じない。ときおり海霧
の切れ目から幻のように怒濤がくだけは消
えてゆく。

もう少しゆけば紅い椿が散っているだろう

が残念また雨風が強くなって来た。

岩礁を潮攻めめぐり寒明くる

紅椿道ゆらぐかに濤くずれ

道ゆらぐ怒濤に落つる紅椿

数年前市の広報委員をしていたときの研修
旅行をしるした私の句帳のページである。

旅はいい。いつまでもあの情景が後に浮ん
できて老いてゆく私のところに、美しくうる
おいを与えてくれる。

短 歌

山内 旬一 (松山)

月讀の光は杉群の秀をおほひわが宿坊の畳あ
かるむ

比叡にゆくバスの乗客は吾一人右滋賀の里と
おしへられつつ

やはらかに襖にさせる朝のひかり冬の匂ひと
ひとりむかへり

藤 田 基 孝 (宇和島)

北の海に拾ひし流木杖にせむと研げば堅き年
輪いでぬ

たくましく立つ岩が根にまつはれる霧の動き
て山しらみきぬ

吾が喜寿を祝がむと君はつやつやしき粟を一
籠提げて来ましぬ

投 稿 規 定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 二月一〇日
原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編 集 後 記

▽新年おめでとうございます。
恩給の五十四年度改定は去る九月七日、衆議
院解散まぎわになってようやく通過成立をみ
ましたが、同じ生活法案である共済年金の方
は遂に日の目を見ぬまま衆議院解散後の臨時
国会にまわされ十二月十日やっと衆議院を通
過し、同日参議院へ回付されましたが、参議
院内閣委員会は十日をもって終了のため同委
員会において継続審議と決定し、来る十二月
二十一日開催予定の第九十一通常国会の開会
劈頭に上程同日中に衆参両院を通過する予定
とのことです。言いたいことは多々あります
が新年の贈りものとして是非成立さしてほし
いものです (玉川)

電友会四国連合会会報 第二九号

昭和五五年一月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(二七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社